

④ a&b 身近の自然を楽しむ 春の白い花たち 2023 (1) (2)

Enjoy the surrounding nature: White flowers in Spring 2023 (1&2)

4/26/2023

吉野輝雄

作詞: 寺尾智沙, 作曲: 田村しげる
唄: 岡本敦郎

白い花が咲いてた
ふるさとの遠い夢の日
さよならと云ったら
黙ってうつむいてたお下げ髪
悲しかったあの時の
あの白い花だよ

Q: あの白い花とは？

今号の特集は、春に咲く白い花。1月以後カメラに収めた草木の花の色を見直すと、実に多くの白い花を見ていた事実には驚いた。そこで、1,2月の花（白梅、節分草、松雪草、水仙、コブシ）と桜桃以外の白い花の草木を2ページ割いて紹介する。

そこで先ず、今でもカラオケで人気の歌謡曲の一つ「白い花の咲く頃」のあの白い花とは何か？家族、友人と一緒に考えて見られたい（正解は不明）。白の花のイメージが関係しているかと想う。例えば、清潔、純粹、無垢、平和、綿、雲、雪など。ネット情報によると、日本人が好きな色の1位は白、2位は青だそう（他の国々では逆転している）。なぜか？和紙、障子が生活の中に溶け込んでいるからかも知れない。白い花の名には、“白”以外に“雲”、“雪”、“銀”、“綿”、“兔”、“白鳥”等が含まれていることに気づく。明らかに、白のイメージだからだ。

ところで、白は色の一種か？虫は白い花にも蜜を求めて飛来しているのか？（科学の問題）。＜説明＞：色は、波長の異なる太陽光（可視光）が物体（花や葉）に当たり全反射されると白く（無色に）見える。しかし、花に色素（例えば赤い色素）が含まれると光の一部（赤の補色である緑付近の光）が吸収され、赤い光が反射されるので花は赤く見えるのである。では、虫は白い花を感知できるのか？実は、可視光を吸収しない白い花には紫外光を吸収する物質があり、虫はそれを感知できるので白い花にも飛来し花粉を運び、受粉を助けている。

ここから本題の花の話に移る。アルバムには白い草木の花を列挙したが、実に多種多様である。春を主役として謳歌している、と言えそうだ。その一つ一つの咲き方、形、周囲の環境の中での存在感（目に惹かれる）に注目していただきたい。

今度の白い花の中で、レア（珍しい）花を2ページの上段に提示した。ハンカチの木が風に揺られた姿は、物干し竿にハンカチを干しているかのようであった。ヒトツバタゴ（一つ葉田子）は、今年初めて芦花公園で見つけた。細長く切った紙片のようで、ナンジャモンジャに似ている（実は、同一樹種）。最近、赤い葉のベニカナメモチ（紅要襦）の垣根を良く見かけるが、芦花公園内の木には、白い小さな花が塊の様に咲いている（他の所は葉のみ）。

次に、白い小さな花が毬のような塊で咲く花の一群に注目されたい。6枚の葉が車輪の軸方向に並び、その中央に梅に似た花を付けるシャリンバイ（車輪梅）。球形に花弁が集まるジンチョウゲ（沈丁花）。卵の花は、垣根沿いに淡い香りを放ちながら群れをなして咲く、正に唱歌の通りだ。ユキヤナギ（雪柳）の花は、拡大すると実に美しいことが分かる。コデマリ（小手毬）、オオテマリ（大手毬）はその名の通り植物の毬だ。

最後は、ミカンの花：種々ある柑橘類の花はどれも白く十字形だが、区別はつかない。熟した果実を比較すると、金柑はサイズが小さく、温州みかんやオレンジは手の平サイズ、夏みかんや文旦は大きく重い。大きさも味も全く異なる自然界は何と不思議か！と思う。

※今号は、白い草木の花を2枚のアルバムに並べてみたが、やはり色がないのはさびしい、と思った。同種の花の中に、白色以外の色の花が存在する例があるので、次号は比較・並列号を集めてみたい。